

源氏物語の語法・用語例の対偶性

——形容動詞語彙を中心にして——

橘

誠

一、源氏物語は原文で読む

亀井勝一郎「光源氏の顔」に、

源氏物語が最大の古典文学であることを知っていても、それを読みとおすことは容易ではない。与謝野晶子、谷崎潤一郎の現代語訳があり、戦後には芝居や映画にもなったが、それだけで源氏物語の世界にふれることは不可能で、困難でもやはり原文に接する以外にない^①とある。宮田和一郎・佐成謙太郎・玉上琢彌・小学館日本古典文学全集本等の対訳、武笠三・池田亀鑑・山岸徳平・新潮日本古典集成本等の校注、窪田空穂・五十嵐力・円地文子・今泉忠義・おのりきぞうの現代語訳等が次々と出て来た。古くは英国のアーサー・エーリー、近くは米国のエドワードGサイデンスティッカーの英語訳も出版されている。

正宗白鳥「『源氏物語』について」に、「悪文呼ばはりするのを、必ずしも暴言とは思はない^②」と評した『源氏』に対して、

ところが、私は今度、英人アーサー・ウェレー訳の『源氏』を通読して、日本にもこんな面白い小説があるのかと、意外な思ひをした。小説の世界は広い。世は、バルザックやドストエフスキーの世界ばかりではない。のんびりした恋愛や詩歌管絃にふけてゐた王朝時代の物語に、無限大の人生起伏を感じた。高原で星のきらめく広漠たる青空を見たやうな気がした。^③

とあるのは周知の事であるが、これは物語の筋や構成に関する事であって、原文から泉の如く湧き出る醍醐味についてではなからう。

「光源氏の顔」では、これに続いて、

むろん今日の我々にとっては、原文は大へん難解なのは事実だ。しかし、どんなに難解でもやはり日本語であって、注釈書をかたわらにおくと、誰でも一応は読むことはできる。英語の勉強には熱心だが、自分の国の古典語は敬遠するというのはおかしいことではなからうか。^④

とある。源氏物語を鑑賞するには、なぜ「やはり原文に接する以外にない」のであろうか。それは、江戸時代の源氏学者安藤為章『紫家七論其四』で「文章無雙」^⑤と賛嘆し、萩原廣道『源氏物語評釋』の「頭書評釈凡例」で述べた、「正副・正対・反対・照対・照応・間隔・伏案・伏線・抑揚・緩急・反復・省筆・余波・種子・報応・諷諭・文脈・語脈・首尾・類例・用意・草子地・余光」^⑥の二十一の範疇、五十風力『平安朝文学史 下巻』に、

源氏はまた他の前代の諸作に見られぬ綿々連亘の美を持ってゐた。吾等が若し『源氏』の文章が、綺麗な句に句を重ね、章に章を聯ねつゝ、重畳累積、切れ目なしに数十行に亘って、しかも極めてよく調和した渾融無縫の美を成して居る趣を見て、五衣十二単衣、裳唐衣の装ひに、厚さと長さとの曲折との限りを見せた、鳳凰のやうな女房装束を思ひ比べるならば、平安朝に於いて最も立派に完成された類似の雙美ともいふべき仮名の文章美と婦人の装束美とを、一挙に看取することが出来るであらう。^⑦

とある源氏物語の原文の含む美しさ・力強さは現代語訳では味わえないからであらう。

源氏物語は音読・朗読されて来た文学であるから、こういう諧調が文章に整っているのであろう。私はかつてこの諧調の源流は源氏物語の語彙・文章の包含している対偶性・並列性・反復性にあるとして、(一)名詞・代名詞の対立、(二)動詞の対立、(三)形容詞・形容動詞の対立、(四)副詞の対立等、対立語の一斑について考察したことがある。^⑧又、形容詞語彙の類義語に力点を置いて、源氏物語の包含する形容詞の対偶性・対立性について小考を加えたこともある。^⑨今回は所謂形容動詞に主点を置いて、その対偶性・対立性を調べてみたい。

二、源氏物語の対偶性

源氏物語が対偶的な対句意識に富んでいることについては、武田祐吉「源氏物語に於ける対偶意識」^⑩、矢澤邦彦「源氏物語文体の研究……そ

の諧調について……」などで論じられているが、この現象を形容動詞並びにこれに準ずる語句を中心にして眺めて行きたい。

1 世の人の有様を見聞くに、劣り勝り、賤しう、あてなる品に従ひて、かたちも心も、あるべきなり。日本古典文学大系 田東屋182
浮舟の母が浮舟の将来を思案し、薫を理想に描く場面であつて、動詞・形容詞・形容動詞・名詞が対立的に用いてある。

2 宮はいと心憂く、「なさけなくあはつけき、人の心なりけり」と、ねたく、つらければ、「若くしきやうには、いひ騒ぐとも」とおぼして、塗籠に御座ひとつ敷かせ給ひて、うちよりさして、大殿籠りにけり。 四夕霧151

夕霧が突如闖入したために、落葉の宮が塗籠に避けた場面であつて、形容詞の類義語の対偶・反復が目立っている。

3 「あなかしこ。……その、うけ給はりしさま」とて、くはしく奏するを、聞し召すに、あさましう、めづらかにて、恐ろしうも、悲しうも、さまざまに、御心みだれたり。 二薄雲234

夜居の僧が語る冷泉帝御出生の秘密をお聞きになる帝の御心境を述べたもので、形容詞・形容動詞の連綿・反復使用が著しい。

4 いと、ものきら／＼しく、かひある所つき給へる人にて、よし悪しきけぢめもけざやかに、もてはやし、またもて消ち軽むることも、人に異なる大臣なれば、 三常夏14

源氏が内大臣の今姫君玉臺の真相を聴き、大臣の氣質を評している場面で、これも形容詞・形容動詞・動詞の類義語や対立語や対偶語などを連綿して、諧調を生み出している。

5 かぎりもなくあてに、気高き物から、なよびかに、をかしき御けはひを、年ごろ、二つなき物に思ひ聞え給ひて、…… 四総角443

匂宮が妹の女一宮を訪ねた際、中君と較べて、女一宮の容姿を述べ、宇治の中君が甚だしく恋しくなる場面の一節で、形容詞と形容動詞とを連綿して、重畳累積の美を生み出している。

右はほんの一斑であるが、文論からは、主語・述語・連体修飾語・連用修飾語に渡り、品詞論からは殆んど各品詞に及んで、対偶・対立・並列・反復等の連綿現象が見られ、誇張したり、臈化したりして、朗々たる諧調を生み、物語るに適する様に書かれている。

以下に取り挙げる形容動詞語彙は、単に所謂形容動詞に限らず、名詞に断定（指定）の助動詞「なり」や、比況の助動詞「やうなり」の付いたものや、副詞でも、「様様に」の様に「様様なる」という連体形の使用例があるもの・あり得るもので、対偶性・並列性等のあるものは準形容動詞とみて広義に扱ってある。故時枝誠記博士のように形容動詞を認めない学説もあるが、ここでは通行の文法学説に従った。引用の

三、形容動詞と形容動詞との連綿

形容動詞・形容動詞

まず形容動詞同士の連綿には、

- 鮮やかならず物恨みがちなる総388 鮮やかに清らなる裏187 貴に美しげなり乙283 緩なり鈴84 清らなれ須
 20 一腐げなり散419・上308 一有趣げなり宿81 哀れとも如何にとも総421 哀れに思ふ様なる裏202 一思ふ様なる
 濡113 一氣配湿やかなる朝241 一妻げなる須30 一様様に賢372 怪しき様に形異なる手414 生憎に中中の明88
 徒に暇有りげなる賢406 打付に浅はかなり紫194 一心地好げなる下388 一も言ひかけ給はず強顔顔なる東181
 麗しげに清らに宿64 艶にあえかなる帚37 おいらかに腐げなり濡116 緩に腐げなり霧127 一腐げなる橘301 臃
 げの定かなる下395 思ひの外に腐げなら帚61 思ふ様に蕪有趣げなり総390 重りに古体なる末262 形清げに誇
 りかなる手404 軽らかに押並ての椎359 幼弱に清らなる乙309 清げに嫺やかなる夢428 明亮に驚き顔に野54 小
 家がちに憤しげなる顔125 心殊に清らに鈴78 一細かなり(細やかなり)須34 心尽しに苦しげなる総433 心ば
 せの和穩に妬げなり末260 心恥かしげにて貴なる浮215 事事しげにしたり顔なら宿84 異様にて転げに賢389 殊
 更に花やかなる横71 殊に明亮なる竹284 一辛げなる宿41 一恥かしげなる総440 一世の覚え重りかに宿35 理
 に哀れなれ朝265 一哀れに葵330 細かに愛しげなり鈴77 一有趣げなら浮244 一有趣げなり東175 一有趣げなれ
 梅178 一有趣げに横71 細やかに美しげなる胡411 盛りに可借しげなる総395 一清らに玉356 細やかにあえかな
 る絵187 一あえかに宿58 一しめやかに宿119 流石に貴やかなる蓬158 一無下に早29 一強なる東138 一哀
 れなり総446 一哀れに顔136・螢421 一舌付に朝260 一恨めしげに霧106 一疎に蜻304 一直面なる橘322 一外様
 の横176 一完全なら蜻282 様殊に哀れなる明68 一有趣げなる横71 様様に可憐しげなる竹273 一所狭げなり下
 335 品貴に艶なら東137 健かに言少なに宿81 漫に只に宿51 一頼み顔なる椎361 一涙がちなり顔126 一涙脆に

形容動詞・形容動詞・
形容動詞

東 193 —物哀れなり野 50 素直に公様の下 395 只有りただあに緩おほどかなる胡 405 只ならず眺めがちなり空 109 徒然つれづれなる夕暮、
：物哀れなる曙明 78 徒然あづからに哀れなる手 404 —長閑のどかに竹 257 取取とりとりに暇いとまなげに下 371 —清らなる匂 219 中空なかぞらに人笑
へに総 414 中ちゅうに細かに賢 380 —世の常に東 133 和穩なだらかに妬ねたげなり末 210 斜なめに偏かたなる葵 341 匂におひやかに清らなる上
310 —柔やわらかに椎 376 長閑のどかに人目稀まれに賢 403 長閑のどやかに徒然なる梅 178 恥はかしげに盛りに賀 280 —用意殊ことなり浮 230
花やかに美しげなり胡 405 —氣配殊けはいなる薄 221 真振まびらに浅はかなら宿 94 —人悪わるげに蓬 144 人少ひとすくなにしめやかなる
葵 338 —長閑のどやかなれ下 378 誇ほこりかに物思ひなげなる蓬 148 細やかに貴きなる宿 121 —有あ趣しげなり東 173 灰はいかなる
光艶ひかりなる事のつま螢 423 灰かなれど定かに明 62 灰かに哀れなれ手 408 完全まに美しげに総 428 実まやかに哀れなる宿
70 —苦しげに東 173 円まるらかに有あ趣しげなる宿 122 胸頭あらはに凡俗ぼんぞくなる空 111 目覚ましげに心地好顔こころよがに霧 118 目もあや
に臆おそげなら総 448 目安き様さまにさはらかに東 146 物清けげに氣配異けはいなべい行 69 物心細こげに里がちなる桐 27 物より殊こと
に花やかなり真 143 瘦瘦やせやせに御髪みづか少なる乙 314 世の常ならず心殊こころなる葵 363 世の常に柔なやびかなる総 386 藤とうげに貴あそ
なる総 443 —貴はかなる総 128 —緩おほどかなり浮 257 —柔やわらかなる霧 104 —若わやかなり胡 402 例れい様に長閑のどやかに総 442 若
やかに事好ましげなる濡 122 —有あ趣しげなれ 濡 108 有あ趣しやかにわらかなる真 149 愚おろなり斯かからじ蜻 294
などがある。

★()の中は潮月抄の本文を示す。

*——印は上の——印の語の反復を示す。

次の諸例には、形容動詞が三つも用いてある。

6 この御文も、けざやかなる気色にもあらで、目ざましげに、心地よ顔に、今宵もつれなきを、「いといみじ」と思す。

(四)夕霧 118

7 家のさまざま、いひ知らず荒れまどひて、さすがに、大きな所の、木立などうとましげに、「いかで過ぐしつらん」と見ゆ。人のさま、若やかに、をかしければ、御覧じはなたれす。——は形容動詞、——は形容詞を示す。(二)濡標 108
生憎あやにくに中中の人の心尽つくしに明 88 緩おほどかに言少なる物から浅はかにはあらず法 179 円まるらかに有あ趣しげなる……貴あてなり宿 122
形容動詞の連綿に形容詞の付く用例には、

形容動詞・形容動詞・

形容詞

いかに哀れに心細く椎367 疎なる物から珍らかに有趣須49 斯様に殊なる有趣き宿118 流石に貴に優雅しければ
378 一無下に隔て多から早29 徒然なる儘に細かに麗しう蜻300
などがある。

逆に、次の様に形容詞が上に付く例もある。

形容詞・形容動詞・形容動詞

形容動詞・形容動詞・
形容詞・形容動詞

浅ましう貴に緩なる橋302 甚じう貴に優雅なる橋315 甚じく盛りに清けなり浮234 一臍げに匂ひやかなる椎314
一有趣げに盛りと総426 限りなく清らに心苦げなり賢377 限りもなく臍げに有趣げなる法181 心強く鮮やかに誇りか
なる柏27 煌煌しう物清げに盛りに行58 此処ぞと見ゆる所なく細かに有趣げなり東175 此上なく言少なに緩な
り蜻301 淋しく物心細げにしめやかなれ幻202 猿楽がましく佗しげに人悪げなる乙280 辛けれど流石に哀れなり宿
93 優雅しう貴に清けなる東150 一恥かしげに心の奥ありげなる句225 めでたく有趣げにて静やかに乙308 有趣
き物の流石に哀れと明73 雄雄しう鮮やか(花やか)にあな清らと柏51
形容動詞・形容動詞・形容詞の下に更に形容動詞が付いている用例もある。
鮮やかに物清げに若う盛りに霧155

四、副詞と形容動詞・形容動詞との連綿

形容動詞又は形容動詞に準ずる語の連綿の上に副詞が付いて修飾する用語例には、

副詞・形容動詞・形容
動詞

いと貴に清らなれ須26 一貴やかに清けなる袴111 一哀れに人遣ならず梅178 一哀れに珍らかなる行82 一哀れ
に臍げなり下372 一優に哀れに上206 一美しげに盛りに竹277 一愛しげに雛の様なる袴199 一微に哀れなる総447
一かはらかに貴なる上280 一警策に生先頼もしげなる上219 一清げに心恥かしげなる上94 一嫺なる夢428 一
有趣げなる空111 一苦しげに懈げなれ桐31 一小家がちに憤しげなる顔124 一細かに愛しげなり手385 一細かに
清らに鈴81 一盛りに清らなる柏26 一静かに物哀れなり横61 一聳やかに様体有趣げなる椎376 一小さやかに

形容動詞・副詞・形容動詞

副詞・形容動詞・形容動詞・形容動詞

副詞・形容動詞・形容動詞・形容動詞・形容動詞

副詞・副詞・形容動詞・形容動詞

賑らかなる東147 ― 慎しげに緩に絵174 ― 徒然に眺めがちなれ葵356 ― 匂ひやかに愛しげなる桐30 ― 恥かしげに清らなる柏43 ― 流石に手413 ― 物物しげに蜻312 ― 花やかに好ましげに賀290 ― 冷やかに貴はかなる篝40 ― 仄に哀れげに霧105 ― 実に生直の初386 ― 実やかに健に霧113 ― 懇に霧129 ― 目もあやにこそ清らに上210 ― 藤げにあえかなる下404 ― 哀れ(あえか)なる顔140 ― 哀れに賢287 ― 有趣げに東144 ― 有趣げに花やかに濡125 ― いとと生憎に物強げなる総384 ― いとど藤げに貴なる宿34 ― 今少しづしやかに重りかなる宿34 実に盛りにて美しげなる総397 然こそおいらかに大きな裏194 只藤げに細かなる浮舟215 何かは事事しげに仕立顔なる宿84 猶心長閑に和穩なる真118 偏に物実やかに静かなる帚65 螢よりけに仄かに哀れなり顔128 例の寢覚かちなる徒然なれ宿67

などがある。副詞が形容動詞の間に入る例は、

流石にいと哀れなり柏36 俄に斯く掲焉に螢423 仄かなれどいと貴やかに宿121 弱げに猶頼み難げに柏28

などがある。

又、副詞の下に形容動詞か三つも四つも重なって連綿をなしている例もある。

8 「よきやうとても、あまり、ひたおもむきに、おほどかに、あてなる人は、世の有様も知らず、かつ、さぶらふ人に、心おき給ふこともなくて、かく、いとほしき御身のため、人のためもいみじき事にもあるかな」と、え思ひ放たれ給はず。

(三) 若菜下399

9 「宮たちは、…此の君は、いとあてなるものから、さま殊に、をかしげなるを、見くらべたてまつりつゝ、…おとゝは、かならずおぼしやすらむ」と、…

(四) 横笛71

10 いと、つゝましげに、おほどかにて、さゝやかに、あえかなるけはひのし給へれば、「いと、をかし」と思しけり。

(二) 絵合174

一方では、次の例の様に、形容動詞の連綿の上に副詞が二つも重なるものがある。

11 いと口惜しく、ねぢけかましきおぼえだになくは、たゞ、ひとへに物まめやかに、静かなる心のおもむきならん

副詞・副詞・形容動詞・形容動詞・動詞

形容動詞・形容動詞・形容動詞・動詞

形容動詞・動詞

よるべをぞ、終の頼み所には思ひおくべかりける。

12 げに、いと小家がちに、むつかしげなるわたりの、このもかのも、怪しくうちよろぼひて、むねくしからぬ、
軒のつまごとに、這ひまつはれたるを、

13 は、君は、たゞ、いと、若やかに、おほどかにて、やはくとぞ、たをやぎ給へり。

用例13では、更に下に類義語の、状態の副詞と動詞とが付いて、諧調を生み出すのに役立っている。

14 かたはらめなど、「あな、らうたげ」と見えて、匂ひやかに、やはらかに大どきたるけはひ、「女一の宮も、かうざまにぞおはすべき」と、ほの見たてまつりしも、思ひくらべられて、うち嘆かる。

用例14では、形容動詞の連綿の下に類義語の動詞が付いている。

五、形容動詞と動詞との連綿

形容動詞の下に用いる類義語の動詞には、

儼忽に渡る下 340 | 遊びがちに好む東 132 | 貴に澄む常 26 | 聳ゆ明 83 | 優雅しき勝る椎 377 | 優雅く紫 203・橋
301 | 貴はかに故付く顔 127 | 貴やかに優雅く浮 213 | 強に憎む花 304 | 人目驚く桐 37 | 持離る乙 274 | 目も立たず
薄 222 | 世を慎む空 116 | も争はず霧 136 | 哀れに打泣く明 89 | 打眺む落 127 | 行ふ椎 356 | 推量る宿 48 | 情
あり桐 33 | 優雅く橋 312 | 厭ほしげに曝ふ末 257 | 優なりと覚ゆばかり優る帚 59 | 言ふ甲斐無げに取成す上 248 | 今
盛りに微笑む胡 396 | 後痛げに気色ばむ東 137 | 打付に炒る夢 423 | 攄く真 120 | 恨めしげに恨む霧 107 | 愁ふ手 375
驚かす葵 361 | 掠む竹 271 278 | 気色ばむ朝 252 | 眺む絵 381 | てて出づ手 372 | えならす薫染む宿 57 | 整ふ東 132
| 匂ふ下 344 | 引繕ふ明 76 | 艶に優雅く花 307 | 物恥す帚 65 | おいらかに打緩く下 355 | 死ぬ霧 156 | 緩に言選をす
帚 63 | 覚え殊に形有る葵 320 | 重りに由づく橋 314 | 疎に見捨つ下 324 | 見成す蜻 303 | は見放つまじき薄 216 | 片
端に心遅る東 197 | 偏に飽かぬ絵 404 | 口付憎げに打笑む絵 426 | 苦しげにややむ宿 122 | 明亮に清まはる上 359 | 持離
る下 400 | 心地無げに物馴る橋 314 | 心地好げに興ある法 176 | 心殊に思ほし掟つ桐 29 | 勝る絵 184 | 整ふ絵 171 |

磨く明 82 賞で合ふ竹 255 心付無げに気色ばむ東 167 心の儘に驕る竹 294 心馳湿やかに才あり東 133 心恥かし
 げに優雅く早 19 心深げに賢しがる宿 77 心より外に世にあり手 371 骨無げに物馴る橋 310 言少なに事殺ぐ総 409
 事の外に転有り末 257 理なりと打語らふ竹 287 細かに句ふ真 125 優雅く絵 171 細やかに書く幻 215 懐しさ勝
 る絵 178 句ふ浮 223 性無げに睨む真 156 淋しげに打荒る須 13 寒げに苛く橋 323 然様なる有るまじき絵 450 静
 やかに優雅く乙 308 過ぎ難に休らふ顔 132 散 418 漫に心化粧す初 384 空にのみ思ほし惚る浮 235 只ならず耳立つ
 上 250 辿辿しげに臆めく橋 329 嫺やかに優雅めく顔 134 慎しげにて恥づ東 195 徒然に人目も見えず東 187 眺めが
 ちに思ひ入る乙 315 音をのみ泣く顔 164 亡き様に思し惚る柏 42 懐しげに愛敬づく総 388 句ふ賢 389 斜に打
 紛る総 395 憎げに押立つ上 247 憎らかにも受張らぬ上 283 句ひやかに微笑む薄 224 音泣きがちに明かす総 395 長閑に
 眺め入る賢 385 心馳ある薄 225 恥かしげに静まる帚 101 持鎮む総 425 花やかならで優雅く梅 173 直赴に物
 怖す下 377 直振に思し成る霧 106 物包す蓬 141 誇りに打解く空 112 程よりは大きに成人く賀 284 実やかに頼
 む句 222 雅に故ある橋 331 無下に屈す蓬 145 類る賢 398 物哀れに眺む竹 293 物清げに今めく乙 309 優雅く
 絵 470 由ある蓬 147 物実やかに後見る帚 70 安らかに大人ぶ上 369 瘦瘦に青む下 410 柔かに緩く顔 136 世の常に
 打馴る宿 80 て類有り蜻 283 藤げに緩く東 190 優雅く葵 333 目留る顔 131 頼付赤む常 24 若やかに気
 色ある須 35 勝る初 377 有趣き様に優雅く椎 360 有趣げに愛敬づく椎 340 優雅く常 15
 などがある。次の用例では、形容動詞の下に類義語の動詞が二つ重なっている。
 浅はかならず打嘆きて立つ朝 254 浅ましげに呆れ惑ふ総 405 鮮やかに抜け出で大人く裏 188 貴に勝れて目に留る
 総 425 強に御前去らず持成す空 109 拘ひ寄る空 109 躊躇ひ助けつつ参る上 231 哀れに飽かず思して止む上 258
 承り明らむ行 85 思し宜ふ松 201 荒らかに引掻投る帚 95 後痛げに膝行入る椎 374 思ふより外に人にも
 見え宿世の程定む上 225 疎に輕め申す上 235 清らに引繕ひ化粧す早 29 気色殊に広がり臥す箒 40 心長閑に居ら
 れたらず私語き歩く東 143 殊更に艶だち色めく宿 46 細やかに句ひ清うなる浮 223 漫に語り愁ふ東 176 只ならず
 言ひ思ふ竹 285 取取に争ひ騒ぐ絵 181 騒動き食ふ常 11 誇りに打解けて笑ひなど戯る空 112 忌忌しげに引隔

形容動詞・動詞・形容詞

て巡らす霧130 万に気色ばみ佗び歩く胡402 無下に知らず至らず帚85 若やかに優雅き愛垂る柏46
次の様に形容動詞・動詞・形容詞の型もある。

強に有るまじき不相応き下368 流石に目覚めて才才しき上136 長閑めがたげに打嘆きつつはかばかしうもあらず霧138

六、副詞と形容動詞・動詞の連綿

形容動詞及び形容動詞に準ずる語と動詞との連綿の上に副詞が付いて修飾する用例には、

余り柔に怯ゆ下430 いと貴に優雅く紫203 澄む常26 貴やかに優雅く浮213 哀れと物を思ふ桐30 哀れに打響む上290 優雅く明25 胡400 夢さ知らる句221 夢とのみ覚ゆ須13 願に引上ぐ上307 艶に見ゆ野54 後痛げに心置く落128 美しげに老整はる明94 艶に恨み掛く賀298 殊更めく下392 疎に事殺ぐ幻202 軟障ばかりを引き巡らす須52 微に忍ぶ玉344 片端に心後る東197 清げに打装束く葵338 室礼ふ紫188 優雅く上306 由あり手358 清らに優雅く須49 似合ふ東151 引緒ふ早49 苦しげに疾む宿122 心殊に思はし掟つ桐29 由あり紫188 心尽しに見じ総430 心恥かしげに優雅く早18 古体に萎る蓬139 細やかに書く159・霧141 聞ゆ玉364・野58・宿98 問ふ桐39 草がちに怒る常33 様殊に持傳く葵336 寒げに打慄く初385 静かに長閑む空112 見回す宿82 忍びやかに打誦す宿90 打笑ふ手374 湿やかに優雅く竹260 辿迎しげに臚めく橋329 頼み難げに弱る下365 慎ましげに思ほし佗ぶ東174 匂ひやかに打笑ふ霧121 差出づ末266 微笑む裏202 笑ふ行88 懇に思し宣はす竹233 書く紫204 聞ゆ桐46・胡415・乙274 仄めかす東145 申す竹253 長閑やかに心馳ある薄225 夢げに弄ぶ賀288 花やかに言ひ成す手285 打振舞ひ成す花313 打笑ふ行94 搔立つ胡397 薫る総391 装束く柏37 差上がる

副詞・形容動詞・動詞・動詞

形容動詞・副詞・動詞・動詞

動詞・形容動詞

法 186 | | 差出づ須 41・霧 139・椎 353・総 391 | | 差入る蓬 158 | | 持成す真 142・紅 245 | | 持映す袴 100
| 腹立たしげに脅す東 162 | 引切に花やぐ霧 164 | 実やかに御心納む紅 246 | 柔かに打身動く霧 98 | 緩に張る
上 244 | 緩らかに打誦す賢 397 | 用意有り顔に鎮む下 410 | 藤げに緩く東 196 | 若やかに緩く竹 292・東 190 | わ
ららかに上る上 244 | 有趣げに愛敬づく椎 340 | | 面瘦す真 120 | | 引繕ふ乙 303 | いとど哀れに見る紫 190
いよいよ物清げに優雅く総 470 | 斯う強ちに慕ふ霧 108 | 中哀れに思す帚 100 | 萎萎と我がの意気にて臥す桐 31 | 物
よりけに若やかなる色す柏 49 | 万につけ物しめやかに引入る紅 247

などがある。副詞・形容動詞の下に動詞が二つ続いている例には次の様な場合がある。

いかで人笑へなる様に見聞きなさむ袴 99 | いと哀れに思ひ後見帚 82 | 美しげに大人び勝る上 268 | | 生ひ成
る花 309 | | 繕ひ立てておはす葵 324 | 警策に老増る裏 187 | 清らに老増る賢 376・朝 251・乙 317 | 細やかに打
私語き語らふ野 59 | 性無げに睨みて張り居る真 156 | 様様に匂ひ来る宿 47 | 忍びやかに誦じつつ居る蜻 331
| 頼もしげに数まへ宣ふ 122 | 慎ましげに思ほし佗ぶ東 174 | 憎げに思し宣ふ竹 270 | 懇に言ひ渡る東 133 | 恥
かしげに仕り心寄す霈 117 | 実やかに怨じ聞ゆ朝 263 | 密に押し開く東 165 | 若やかに生ひ立ちて打靡く胡 408
斯う強に慕ひ怖づ帚 71 | 人の只ならず言ひ思ふ・上 249

次の様に副詞が形容動詞の下に来る例もある。

漫 斯く戯へ隠す霧 125

七、動詞と形容動詞との連綿

形容動詞の上に類義語の動詞が付く例には

飽かす哀れなり桐 27 | 哀れに椎 362 | 盛りの下 326 | 荒れて危げなる東 179 | 打解け心の儘なる梅 177 | ず慎しげ
に宿 70 | 生先見えて緩なる浮 207 | 霞にも紛るまじく花やかなる初 385 | 菊移ろひ果てて盛りなる宿 35 | 消え返り輝

動詞・形容動詞・形容
動詞

動詞・形容動詞・形容
詞・形容動詞

動詞・形容動詞・形容
詞

動詞・形容動詞・動詞

動詞・形容動詞・副詞

かしげなる橋 316 心解けず恥かしげに総 461 心に任せて逸なる句 228 一安らかなる浮 213 心も留めず目覚しげに
賢 412 子めきて柔なる帚 64 様変りて花やかなり椎 376 年積りて賢しげに総 400 優雅き清らに総 173 涙惜しむま
じく哀れなり総 171 馴れて清げなる常 33 老びたれど清げに東 131 初霜結ばほれ艶なる袴 112 人人罷出でてしめ
やかなる蜻 290 人目離行きてしめやかなる総 382 見所あり有趣げなり浮 242 持消ちて恥かしげなる総 382 持鎮め
健なる初 391 物好みし艶に梅 174 物の言ふ甲斐ありぬべく若やかなる宿 85 由あり貴なる橋 416 世づかずぞ哀れ
なりける真 150 世に逢ひ花やかなる賢 97 世に目馴れず珍らかなり胡 397 世の物に似ず艶に総 431 悪び偏なら宿
114 女にて見奉らまほしう清らなり賢 390
などがある。形容動詞が下に二つ重なって、

言ひ知らず貴に薦げなり上 308 人に優れて鮮やかに清らなる裏 187 用意あり貴に薦げなり散 417
となつてゐる用例がある。又形容詞が入って、

15 大殿油を近くかゝげて、見たてまつり給ふに、あかすうつくしげに、めでたう清らに見ゆる御顔の、あたらしさ
に、
(四) 御法 185

と重なつてゐる用例もある。

動詞・形容動詞の下に形容詞の付く例には、

言ひ知らず薦げに心苦しき宿 75 身にしみて哀れにめでたし須 26 物慎みせず逸に強悍き東 167
などがある。又、動詞・形容動詞の下に動詞が付いて、

この世の物ならず清らに成人け桐 42
となつてゐる用例もある。

動詞・形容動詞の下に類義語の副詞が付き、

子めき緩に嫺嫺と浮 265

となる用例があり、逆に副詞が上に付いて、

副詞・動詞・形容動詞

動詞・形容詞・形容動

詞

動詞・形容詞・形容動

詞・副詞

動詞・動詞・動詞・形

容詞・動詞

形容動詞・形容詞

余り持離れ奥深なる手 373 甚う思ひ上りて妬げに明 78 一 湿り恥かしげに絵 174 一 湿り物心細げに柏 45 一 酔進
みて無礼なれ裏 191 いと愛敬つき美しげなり手 378 一 花やかなる空 111 一 戯れ頑なる乙 280 一 優雅き清らに
絵 173 一 馴れて清げなる常 33 一 見所ありて哀れなれ下 394 一 見まほしく腐げなり宿 103 一 埋れ健に末 256 一 由
あり貴なる橋 316 愈飽かず哀れなる桐 27 一 磨き添へつつ細かに宿 112 一 え憎むまじう腐げなり東 156 一 少し物の言
ふ甲斐有りぬべく若やかなる宿 85 人より異に用意あり長閑に柏 41 昔も今も物念じして長閑なる浮 214
となる例などがある。

動詞・形容詞・形容動詞と重なる例には、

打解けず心深う恥かしげなる紫 205 色合ひも変わらず白う美しげになよなよと総 461
などがある。総角の巻の用例では、下に更に状態の副詞が続いて、諧調を助けている。

16 尼君は、おやの患ひ給ふよりも、この人を、生け果てゝ見まほしう、愛みて、うちつけに添ひ居たり。

(田)手習 348

では、形容動詞「うちつけに」を挟んで、上と下とで動詞が四つ重なっている。

最初に挙げた用例 1 (東屋 182) では、動詞・動詞、形容詞・形容動詞が対立している。

八 形容動詞と形容詞との連綿

形容動詞及び形容動詞に準ずる語の下に来る類義語・対偶語・対立語の形容詞には、

鮮やかに今めかしう蓬 158 一 け高き柏 43 一 二無し下 342 一 匂はしき裏 207 貴にいみじく下 373 一 美しかり蜻 296
一 覚え高く賀 290 一 限りなく総 499 一 け高き落 399 一 け高く横 66 一 優雅し上 293 一 優雅しう裏 194・梅 237 一 優
雅しかり東 195 一 優雅しき乙 288・法 181 一 優雅しく下 319 一 賞でたき裏 207 一 腐かり宿 76 一 有趣東 174 一 有趣
う紫 192・梅 293 一 有趣き花 313・宿 105 貴はかに腐く玉 363 一 口惜しから玉 362 貴やかに心憎き賀 289 一 有趣う宿

62 強^{あながち}に怪しき明 57 —いとほしう竹 279 —丈高き顔 123 —辛^{つら}き乙 314 —情深^{なまけ}う霧 104 —愚^{おろこ}しく下 321 哀れ
 げに心苦しう椎 377 —懷^{なつか}しう胡 412 哀れと思ふ恨めしと聞く霧 167 —(哀れに) 涙含^{なみだ}ましく上 272 哀れに浅まし
 き蜻 295 —味気^{あぢき}なし霧 143 —有難^{ありがた}き賢 380・霧 95 —いとほしかる幻 198 —鬱^{いぶ}悵^{だう}き上 298 —鬱悵^{いぶだう}く常 16 —甚^{いひ}じき
 須 11・蓬 141 —後痛^{うしろめた}けれ紫 185・紅 238 —後安く早 27 —嬉^{うれ}しかり下 407 —嬉しく真 117 —不相^{ふあひ}応^{あひ}く下 327 —覚^{おぼ}束^{つか}
 なき上 301 —覚^{おぼ}束^{つか}なく蓬 146 —面白く胡 396 —面白し絵 185 —忝^{かたじけな}かり薄 235 —忝く霧 121・東 132 —忝し葵 323・
 葵 354・螢 424・柏 17 —悲しき明 58・上 257 —悲しく下 416 —口惜しう顔 125・玉 329 —口惜しく薄 230 —心苦しう
 霧 109・乙 297・橋 302 —心苦しき霧 129・夢 434 —心凄^{こころ}き横 63 —心凄し橋 329 —心深き葵 350・蓬 145・梅 178・霧 134
 —心深く葵 341 —心細く玉 333・橋 297 —心緩^{ゆる}び無き賀 283 —恋しう須 33 —恋しき真 139 —恋しく東 196 —淋^{なみだ}し
 き蓬 138 —去り難う柏 27 —尊き下 385 —尊けれ賢 400 —情^{なさけ}なかる手 381 —情情しく総 421 —懷^{なつか}し梅 164 —懷
 しう明 89・宿 42 —夢^{はかな}かり玉 360・柏 39 —夢く賢 389 —久しう椎 341 —深き柏 48・宿 41 —深く明 88 —宜^{なべ}宜^せし
 く帚 83 —めでたし須 26・霧 120 —物心細き法 179 —やむごとなき賀 275 —床^{ゆか}しう紫 214・柏 22 —藹^{おほ}し霧 102 —
 忘れ難く総 442 —有^{まさ}趣^しく橋 301 —も有難^{ありがた}かり霧 158 —も恋しうも須 33 —も恥^{はづ}かしくも真 122 —も有^{まさ}趣^しうも
 総 470・早 14 —も有^{まさ}趣^しくも上 245・総 389・手 406 余りに恐ろしき桐 43 —人憎^{いと}く総 470 怪しき様に形異なる手 414
 生憎^{あやにく}に著^いき柏 18 —憂^{なげ}き下 399 —情^{なさけ}なく乙 321 —紛^{まぎ}れ難う空 116 頭^{あたま}に夢^{はかな}く桐 40 荒らかにおどろおどろしく柏
 14 如何^{いか}に心細から紫 218 今更に見苦しかる顔 131 —人悪^{わる}き明 78 今様の心浅から椎 341 色色に好く東 195 打^う
 付^{つけ}になど浅う東 160 —浅かり総 405 —浅き橋 316 —騒^{さわ}がしく行 83 —露^{つゆ}けく幻 201 —深から帚 94 美^{うつく}しげに優雅^{なまめ}
 しく下 345 —めでたし末 257 麗^{うら}かに物面白く法 175 艶^いに甚^{いひ}じき橋 324 —好^{この}ましき帚 75 —漫^{そぞろ}寒く宿 84 —眩^{まばゆ}
 き明 67 —めでたき早 13 —も凄^{こころ}くも帚 99 おいらかに美しき上 265 —すすすすしき胡 414 置所^{おきどころ}無げなるまで
 所狭^{せう}き鈴 81 恐ろしげに憂^{なげ}き総 463 輒^{おぼ}爾^ろにて甲斐^{かひ}なし関 164 緩^{ゆる}なる物から幼から宿 35 緩^{ゆる}に理想^{りよう}しく玉 333 —有^あ
 趣^しかり橋 323 覺^{おぼ}殊^とに重^{おも}重^{おも}しう句 220 臃^{おぼろ}げにやんごとなき薄 226 思^{おも}はずに深う宿 72 —心憂^{こころ}し浮 201 —心付^{こころづ}なき

胡 414 | 心付なし浮 242 | 辛し総 464 | 憎く宿 74 | 物物しう椎 371 | 幼く霧 126 | 思ひの外に怪しき顔 145 | 憂
 かり宿 80 | 口惜しう橋 300 | 口惜しから顔 130 | 口惜しく濤 110 | 心憂き柏 36・総 397 | 心憂く葵 358 | 心憂
 けれ手 359 | 心付なし竹 253 | 有趣から帚 61 | 有趣き顔 135 | 思ふ事無げにめでたけれ宿 110 | 思ふ様に理想しく
 薄 239 | めでたき裏 191 | 思ふ様に嬉しく下 356 | めでたし真 154 | 重りかに心深き竹 264 | 疎ならず心苦しう東
 183 | 珍しき宿 116 | 有趣き椎 341 | 疎に浅き下 406 | 警策に重重しく東 141 | 頭付細やかに小さき空 111 | 数な
 らぬ幼き薄 241 | 頑に好好しく手 413 | 形清げに丈立等しき下 329 | 片成りに飽かぬ所無く宿 68 | 片端に見苦しか
 ら顔 163 | 仮初に味気なき橋 304 | 際殊に賢く桐 45 | 際やかに小さく鈴 77 | 急に性無く(性無う)賢 377 | 清げに
 目安く幻 213 | 雲居遙にめでたく濤 120 | 悔しげなる事も目覚ましき思ひも上 224 | 明亮に端く螢 419 | 頭証に人繁く玉
 362 | 頭証(頭証)に端き宿 93 | 心地ゆきげに滞無かる上 302 | 心殊に蕪深く行 86 | 所狭き鈴 80 | やむごと
 なく朝 249 | 心無げに幼く賀 289 | 心解けて夢をだに見るべき程も無げに凄く橋 309 | 心長閑に賢う浮 214 | 様好
 く蜻 324 | 物深う東 189 | 心恥かしげに用意深く東 157 | 心延長閑に好く柏 29 | 心細げにて頼もしげ無き夢 424 | 心見
 えに心付なし螢 436 | 心より外に淡淡しく上 213 | 便なき袴 96 | 有趣き顔 168 | 事有顔に近く下 393 | 異様に後安き
 霧 159 | 付付しく浮 202 | 殊更に甚じき総 402 | 心憂き霧 160 | 事しから帚 89・上 341 | 小さく下 346 | 言少な
 心憎き竹 258 | 殊なる深き法 175 | 殊に慌しう須 34 | 嬉しく宿 112 | 輕輕しく竹 285 | 心許無き宿 34 | 無く蜻
 292 | 程遠く浮 211 | 見所なく顔 144 | 藹藹しう真 143 | 有趣き宿 67 | 殊の外に惚惚しく法 190 | 理にいとほし
 かり乙 276 | いとほしく東 174 | いとほしけれ朝 258 | 甚じ賢 401 | 甚じけれ葵 340 | 悲しう桐 36 | 悲しく法
 183 | 心苦しき幻 204 | 心苦しき総 418 | 心苦しけれ乙 275 | 煩はしけれ句 228 | 細かに有難く玉 369 | 厳しう
 鈴 81 | 美しき手 400 | 有趣げさは無く常 26 | 細やかに忝く胡 419 | 懐しう椎 361 | 懐しく初 380 | 隔てた
 る気色無く下 322 | やむごとなく句 225 | 有趣帚 100 | 有趣き顔 174 | 盛りなるも未しきも幻 200 | 盛りに色も似る
 物なき梅 161 | 流石に浅から薄 245 | 危し紫 212 | 怪し宿 42 | 荒荒しく浮 212 | 甚くも浮 259 | いとほしう賢 413・
 霧 151 | いとほしく総 431 | いとほしけれ乙 293 | 甚じ賢 386 | 甚じけれ紫 206 | 疎く宿 40 | 初初しう手 369 |

初初しく東 183 — 嬉しく東 16 — 多く椎 341 — 書き難く総 406 — 賢く袴 106 — 忝う竹 287 — 口疾く帚 84 — 口
 惜しう薄 241 — 苦しう賢 388 — 苦しき総 433 — 心苦しう薄 228 ・ 竹 283 — 心苦しう紫 201 — 心細かき柏 27 — 心
 細く末 242 — 便無く総 387 — 無し総 433 — 慎しき東 177 — 何心も無う霧 137 — 端く薄 236 — 恥がまし行 87 — 恥
 かしく賀 288 — 恥かしけれ宿 184 — 便なし手 373 — 気味悪き夢 432 — 難しう紫 217 — 床しかり宿 117 — 由由しけ
 れ紫 227 — 有る趣く紫 183 様異に蔽し霧 117 — 蔽しう裏 201 — 今めかしう霧 120 — 今めかしう螢 428 — 疎し螢 419
 — 不相応き下 395 — 心深く下 360 — 様有る趣く東 133 様様に有難う霧 154 — 聞き難く宿 57 — 珍しき袴 110 — 物悲
 しき下 332 — 有る趣く梅 163 ・ 句 227 様様になん安からず言ひける蜻 287 静かに心細く柏 48 静やかに心憎き下 399
 したたかに賢き行 76 舌疾に淡つけき賢 410 忍びやかに快く玉 362 しめやかにて人繁からぬ下 371 — 有る趣く賢 407
 健に心付なし帚 97 — 強強しき宿 70 — 直直しき下 323 漫に悲し紫 186 — 恋しき東 190 — 心細けれ宿 54 —
 凄じく帚 106 — 難し蜻 300 — 物悲し法 181 — 煩はしく東 171 — こそ恋しけれ乙 311 墨付微に心許なく帚 63 切に
 鬱悵き明 72 — 面白う裏 205 対面の稀に鬱悵う鈴 90 丈高やかに目付冷ましく柏 14 確かにはかばかしう手 355 只な
 らず恐ろし賢 392 — 物嘆かしく句 224 妙に面白く上 244 — 有る趣く梅 169 徒然に凄う宿 55 — て恋し葵 348 取取に
 捨つべきも無く葵 330 — めでたし宿 108 — 有る趣く竹 264 中空に心細き霧 122 — 所狭き浮 244 — 悟かしき霧 145
 緩に後痛き常 21 — 強顔く下 400 斜ならず甚しく浮 231 — やむごとなき上 228 斜に輕輕しき夢 431 — 目安く上
 306 — だにあらず類無き法 185 並ならず有る趣く総 421 並並ならず傍 痛し空 109 並並の容易き末 247 柔に情
 情しき真 122 — け近う霧 104 — 優雅しく梅 161 — 有る趣く総 55 ・ 総 443 — 女し帚 63 柔に有る趣く総 403 柔(柔)
 に有る趣き上 248 憎げに飽きたし霧 154 二の町の心安き帚 57 俄に浅ましう紫 227 ・ 霧 147 — 浅ましかり霧 109 — お
 だろおどろしく賢 409 — 重く霧 136 — 所狭う明 94 — 傍く蜻 301 — 端かる宿 62 — 膚寒き桐 34 — 眩き松 192 句
 ひやかに有る趣けれ東 152 懇に深く手 402 長閑に嬉しかり浮 232 — 気高き総 421 — 頼もしく蓬 148 — 二心なく下
 325 — 物深く総 431 長閑やかに様好かる浮 214 — 紛るる事なき竹 293 — 目安く竹 288 恥かしげに限りなう総 461
 — 見え難き総 395 — 腐腐じう宿 68 花やかに有るべかしき行 80 — 今めかしう梅 164 — 今めかしう上 267 — ……今

めかし竹 281 | 面白し簪 42・下 353 | 曇無き竹 281 | 賑はしき幻 203 | 賑はしく法 176 | 有趣鈴 83 | 逸に雄
 雄しく宿 48 | 鬚がちに強顔き松 193 | 直赴に二心なき東 146 | 直振に浅き真 146 | 浅まし浮 218 | 鬱悵く宿 77
 | 好好しく螢 422 | 一方ならず心慌しく顔 131 | 煩はしけれ早 29 | 人に異なる様にて、事事しく下 357 | 人より殊に
 美しう落 104 | 口惜しき幻 198 | 人笑はれに憂き胡 46 | 愚がましき総 440 | 人笑へに淡つけき梅 239 | 甚じ総 467
 | 憂き浮 251 | 悲しう東 135 | 端う竹 285 | 端き松 192 | 見苦しき総 420 | 日長閑に曇無き常 11 | 不束に物物
 しき下 345 | 仄に暗う浮 212 | 開けさいつつ有趣き幻 195 | 眼居長閑に恥しき柏 39 | 眩げにわざとなく霧 137 | 完全に
 目安く橋 323 | 目延らかに恥かしう横 58 | 実やかに婀娜めきたる所なく乙 281 | 美し下 321 | 心憂く霧 146 | 索索
 し賢 290 | 才深き乙 281 | 頼もしう蜻 335 | 辛し朝 257 | 目覚まし空 109 | 物淋しう明 80 | 床しく竹 261 | 煩
 はしけれ真 145 | は好好しき梅 162 | 耳挟みがちに美相なき帚 64 | 雅に今めかしけれ宿 123 | 心恥かしき東 146
 | 良し松 203 | 昔様にて麗しき蓬 127 | 無下に亡き葵 337 | 世近く下 336 | 無心に心付無く帚 105 | 娘がちにて、所狭かり
 須 42 | 難しげに所狭く法 178 | 珍らかに跡もなく夢 422 | 怪し手 411 | 蔽しき葵 335 | 甚じう胡 412 | 甚じく法 183
 | 情無き下 373 | 装しく下 329 | 有趣須 49・行 67 | 有趣く螢 426 | にも恥かしうも橋 331 | 目馳れぬ様に今めかし
 く(今めかしう) 梅 160 | 心憎き賢 374 | 目もあやに甚じき手 357 | 心付なう総 414 | 好ましう紫 203 | 濛濛に耳も
 朧朧しかり上 280 | 文字少なに好ましく梅 172 | 物哀れに凄く紅 242 | 慰む方なく明 86 | 物清げに面白し橋 312 | 有
 趣う手 361 | 物実やかに有るべかしう玉 360 | 宜宜しき裏 188 | はかばかしき初 384 | 物より殊に気高く初 382 | ゆく
 りかに淡つけき胡 412 | 怪しく下 319 | 窈窕に面白く 322 | 夢の様に浅ましき総 415 | 緩に面白く下 353 | 用意殊に宜
 し真 120 | 好げにめでたし東 142 | 横様に甚じき上 297 | 世の常ならず蔽しう柏 48 | 世の常に疎疎しく早 28 | 抛所無げ
 に悲し賢 405 | 万も知らず顔に幼き横 55 | 薦げに心苦し野 62 | 心苦しき宿 75 80 | 若やかなり胡 402 | 幼き上
 255 | 若やかに有趣き霧 121 | 有趣けれ落 108 | て紛るる事なき帚 58 | わららかにけ近く螢 420 | 賑はしく真 119
 | めでたう柏 39 | 有趣げに優雅しく初 387
 などがある。

[illegible]

形容動詞・形容詞・形容詞・形容詞
容詞・形容詞

(三) 若菜下 360

殊に、心慌しう行き拘ふ方もなく、しめやかにて、須³⁴

真青に白く細やかに弱く哀れなる総 427

総角の巻の用例では、更に形容詞と形容動詞とが下に重なっている。

九 副詞と形容動詞・形容詞との連綿

形容動詞及び形容動詞に準ずる語の下に類義語・対偶語・対立語風な形容詞の付いた連綿の上に副詞が付いて修飾している用例には、

- 副詞・形容動詞・形容詞
- いと鮮やかに雄雄しき真129 — 貴に美しく紫220 — 覚え高く賀290 — 限りもなく東171 — 心苦しき
橋310 — 優雅しき早12 — 女しう霧162 — 貴はかに児めかしく顔139 — 有趣く下346 — 哀れに味気な
く須49 — 後痛く蓬143 — 後安く早27 — 打置き難く明85 — 宜宜しく(宜宜しく)帚83 —
嬉しかる早21 — 忝く濡121 — 口惜しう顔125 — 口惜しく下401 — 心苦しき夢44 — 心
恥しう明95 — 心細き上288 — 恋しう松211 — 淋しく(淋しう)末258 — 美しげにて、何心もなく玉
363 — 艶にめでたき早13 — おいらかに強顔う真127 — 緩に美しう濡112 — 女しき野55 — 思ひの外に難
しう鈴88 — 有趣う顔137 — 思ふ事無げにめでたけれ宿110 — 重りに理想しう梅245 — はかばかしき
螢435 — 幼弱に美しう乙288 — 幼かる竹254 — 急に性無く賢377 — 清げに理想しう明69 — 理想しく手365
— 振けたる所なく手352 — 故故しく東184 — 清らに香しき末257 — 物物しく上275 — 苦しげに言ふ
甲斐なく霧124 — 清らにて長かり真125 — 明亮に端く薄226 — 殊に厳しき絵436 — 理に忝し紫206 — 恥か
しく総408 — めでたく玉351 — 細やかに懐しう椎361 — 盛りに賑はしき賢409 — 匂多く早12 — 細
に様体有る趣く手399 — 有趣き幻208 — 流石に物難しく橋310 — 寒げに心苦し初385 — 身細く橋314 — 静
かに物遠き賀297 — 物物し裏185 — 尻干に人悪き梅177 — 健にきらきらしく乙284 — 強顔く薄244 —
切に優雅しう竹264 — 有趣橋325 — 登やかに優雅しう竹264 — 徒然に心細く下378 — 紛るる事無かり上
304 — 情無げに見憎く東157 — 涙がちに古めかしき上278 — 柔に心苦しう橋315 — 妬げに心悩まし真125 — 懇
に深く柏35 — 長閑に心憎く顔128 — 様好く霧103 — 傍げに有る趣き柏16 — 恥かしげに心深き東172 —

副詞・副詞・形容動
詞・形容詞

形容動詞・副詞・形容
詞

藹藹じう宿 68 | | 有趣上 252 | 直屋籠りに情無かり帚 73 | 人少なに心細く総 455 | 多やかにて長く空 111
 | 不束に心付なし顔 131 | 実やかに事しき胡 403 | 物哀れに露けく柏 49 | 珍らかに今めかしき紫 231 | |
 美し上 282 | | 恐ろしう玉 365 | | 気味悪けれ顔 149 | 藹げに心美しき宿 78 | | 懐しく下 353 | |
 有趣袴 102 | | 幼き上 255 | 有趣う哀れに東 196 | | 色色に東 165 | 有趣げに小さき橋 301 | | 藹
 顔 153 | | 勞勞じく椎 344 | いとど貴に有趣下 406 | 哀れに嬉しく宿 78 | | 限りなう紫 207 | | 悲しう
 賢 406 | 思はずに心付なき胡 414 | 清らに若う末 256 | 人少なに淋しけれ紫 219 | 愚に頑しき明 76 | | いたもい
 とも好げにめでたし東 142 | 今なん哀れに口惜しく薄 230 | いよいよ哀れに甚じ浮 240 | 斯く哀れに長き初 385 | 心よ
 り外に若若しき葵 344 | 様様に美しく竹 288 | 漫に心弱き蜻 291 | なべてならずおどろおどろしき蜻 279 | 有趣
 げに若き賀 279 | 斯うこそ思ひの外にめでたき濡 113 | 必ず人笑はれに憂き宿 41 | 実に疎ならず思遣深き東 158 | 更に
 非常の怪しからぬ手 342 | 然引切に際しき真 138 | 少し不束に物物しき下 345 | 若やかに宜しき東 168 | 許多遙に嚴
 しう紫 181 | 中哀れに甚じく末 260 | 人笑へに輕輕しき総 398 | 行先頼もしげにめでたかり下 328 | 猶殊に面白く
 東 180 | 殊に重重しう宿 114 | 珍らかに有趣う浮 238 | 將流石に細碎しき竹 291 | 心殊にこそけ遠かり玉 374 | 況哀
 れに言ふ甲斐無し桐 32 | 皆取取に後痛からず裏 201 | 朗にあるべかしく上 223 | 未片成に何心もなき東 180 | 無下
 に幼き紫 191 | 世に浮きたるやうにて見苦しかり裏 200 | をさをさ明亮に物深くは見えず上 301
 などがある。副詞が二つ上に重なる用例には、
 いかで斯う人少なに心細う紫 211 | 実にと人柄重りかに心憎き竹 217 | 只斯くぞ取取に較べ苦しかる帚 81 | 年頃斯
 く遙なりつれど疎く東 147 | 猶いとこそ雅に今めかしけれ宿 123
 などがある。
 副詞が形容動詞と形容詞との間に入る例は、
 明亮にいと物遠く椎 371 | 流石にいとほしけれ宿 55 | | 後痛き松 197 | | やむごとなき手 348 | 中中に悪
 しかり浮 268 | 人少なに怪しき浮 269 | 実やかに一行先少なき下 358 | 長閑に疾く蜻 321 | 斜にさても人聞口惜しか

形容動詞・形容詞・副詞・形容詞

副詞・形容動詞・形容詞・形容動詞
詞・形容動詞
形容動詞・形容詞・副詞・形容動詞
副詞・形容動詞
副詞・形容動詞
副詞・形容動詞・形容詞・形容動詞
副詞・形容動詞・形容詞・形容動詞

る椎³⁴⁵ 心より外に世に後痛く手³⁷¹ 実やかなるをも又例の乱りがはしき事を、葬³⁴⁴
などがある。副詞が最後に付いている例には、

あなたが
強に愚しく且はおぼゆ下 321

形容動詞・形容詞・形容詞の上に副詞が付いて修飾している用例には、

いと鮮やかに気高う今めかしき竹264 ―哀れに悲しく心深き帚66 ― ―懐しう有趣橋314 ―美しげにて若く何
心なき上219 ―気配殊に心深く優雅しき浮231 ―殊に有趣う面白く総439 ―健に重重しう雄雄しき柏46 ―長
閑に懐しう目安き宿56 ―若やかに心美しう朧たき霧157 ―重りかななる方ならで只直振に品品しからず人氣なう

東
178

などがある。次の様に副詞が形容詞の間に入っている用例もある。

18つれなくて、大方の世の中のことゝも、あはれにも、をかしくも、さまざま、聞き所多く、かたらひ聞え給ふ。

(四) 総角 389

19 いらへ給はむこともなく、うち嘆き給へるほど、忍びやかに、うつくしう、いとなつかしきに、なほえ忍ぶまじく、

(三) 藤袴 101

(三) 藤袴 101

又、形容動詞・形容詞・形容動詞の連綿の上に副詞が付いて修飾している用例もある。

副詞・形容動詞・形容詞・形容動詞

形容動詞・形容詞・副詞・形容動詞

副詞が自由に間に移動している用例には、

副詞・形容動詞・形容詞・副詞・形容動詞

副詞・形容動詞・副
詞・形容詞・形容動詞

逸に雄雄しくなどは物し給はぬ人柄なるをいよいよしめやかにもてなしをさめ給へれば宿48
いと微におはす
れど装束の理想しう…いと清らぞあるやに宿123
いと静かに見えて態と好ましき事もなく貴やかに初380

などがある。

一〇 形容詞と形容動詞との連綿

形容詞・形容動詞

形容詞の下に類義語の対偶語・対立語等の形容動詞及び形容動詞風の語の来る用例には、

- 飽かぬ所無う我が心の儘に花 309 浅からず哀れなり明 83・橋 322 浅ましう哀れと浮 235 | 如何様に紫 226 | 偏なら
ら総 393 | 偏なる東 178 | 中中なり紫 206 | 夢げに柏 22 | 完全に顔 125 | 珍らかなり須 53 | 珍らかなる浮 219
| 珍らかに薄 234 浅ましう偏に東 161 | 待遠なり総 452 | 珍らかなり帚 105 | 柔に薄 240 味気なく夢の様に帚
104 新しう清げに浮 212 可憐しう美しげなり梅 176 可憐しく警策に東 147 あなかしこ徒に葵 360 遍く哀れに薄 230
怪しう哀れなる賢 400 | 荒らかに東 132 | 如何なり夢 434 | 覚えぬ様なり顔 165 | 思ひの外に紫 217 | 苦しげに
宿 124 | 心より外に宿 79 | 中空なる霧 165 | 何心もなき様に霧 110 | 悩ましげに真 120 | 花やかに野 52 | 人
に似ぬ有様に宿 59 | 様の賢 392 | 世に並てならぬ薄 227 怪しき不用の手 348 | 世の例なる総 383 | まで心深げ
に総 439 | まで言少なに蜻 298 | まで漫なる法 189 怪しくあえかに野 54 | 哀れなる宿 121・浮 234 | 頭なる宿 121
| 心幼げなる東 176 | 背 背に裏 183 | 俄なる下 321 | 珍らかなる手 407 | 物哀れなる乙 289・袴 102 | 夢の様なる
空 114 | 夢の様に総 407 | 様の手 405 | 例ならぬ朝 265 理想しう清らなる柏 23 理想しく美しげなる裏 203 有難う
有趣と真 123 | 哀れなる霧 111 | 細やかなる濡 109 | めでたさまにて濡 112 | 有趣げなる乙 309 有難く哀れなり蜻
332 | 哀れなる総 388 | 哀れに上 268 | 美しげなる総 449 | 細かなり上 246 | 難げなる東 173 | 珍らかなる宿 84
| 珍らしき桐 30 あるべかしうしめやかに賀 279 厳しく思ふ様なる東 147 | 細かに下 404 甚う嘆かしげに紫 222
著くいとほしげなる椎 351 | いとなく長閑に椎 365 | ひとつもなくしめやかに手 359 | 出でん方なく中中なり下 374
甚しく哀れなり総 440 | 清らに薄 224 | いとほしう心恥かしげなれ霧 108 | 漫なり明 69 | いとほしく哀れに末 258
命長き嬉しげなる下 328 | 言はむ方無き盛りの松 206 | 言はん方なく美しげなり蜻 314 | 言ふ甲斐無く哀れに賢 389 |

逸なる下 363 言ふ由なく清らに真 144 一有趣げなれ柏 52 今めかしう心安げに竹 290 一有趣げに絵 180 今めか
しき事なく静かなり賢 379 甚じう哀れと手 412 一物を哀れと明 92 一哀れなり濤 125・松 195・胡 412・法 177 一哀れ
なる乙 316 一哀れに須 43・蓬 154 一艶に紫 220 一清らに紫 238 一心細げなり蓬 137 一淋しげなる末 265 一人笑は
れに胡 415 一腐げなり賢 385 一有趣げなり法 179 一有趣げなれ紫 212 一有趣げに紫 229・須 29 甚じき盛りに蜻 316
一盛りの松 188 甚じく鮮やかに上 218 一哀れと浮 227 一哀れなれ横 55 一艶なる朝 258 一思ふ様なり手 400 一清
らなる上 216 一心細げなる総 431 一心細げに紫 210 一淋しげなり橋 310 一(甚じう)堪へ難げに葵 329 一物哀れ
と早 19 一有趣げなり下 345 賤しう貴なる東 182 賤しく異様なら東 143 色黒く鬚がちに行 69 後痛く哀れに蓬 148
薄きながら、も長閑やかに手 383 美しう清らなり末 267 一腐げなり賀 286 疎疎しう及び難げなる下 322 初初しう生
直なる真 126 裏表等しう細やかなる末 262 恨めしうも哀れにも蓬 149 恨めしき折折待顔ならん夕暮 57 うらも
無く待ち聞え顔なる顔 130 麗しく重りかに下 359 恐ろしう人聞き片端に真 126 大人大人しう恥かしげなる紫 194 お
どろおどろしう様異なる紫 207 おどろおどろしく強悍き様なり蜻 322 覚束なく哀れに裏 197 お前の人遠く長閑や
かなる螢 419 重くづしやかなる柏 13 面白う静かなる明 95 面白く哀れなる賀 271 一哀れなれ絵 177 思ひ限無く
明亮なる行 67 思遣深く哀れなれ須 44 親も無く心細げに帚 78 搔付かむ方なく悲しげに蓬 146 限り無う哀れな
る宿 80 限り無く哀れと明 96・絵 182・橋 297・浮 226 一心殊なる上 303 限りもなう清げなり霧 162 風膚寒く物哀れ
なる横 62 忝く哀れと下 374 蜻 282 一哀れに浮 249 忝けれど、哀れに東 154 形汚げなく若やかなる帚 63 形好き
も心貴なるも宿 123 才才しく(事事しう)賢げなる梅 173 悲しく生憎なり蜻 311 河面近く顯証に宿 96 甲斐なく
愚に空 113 髪麗しく罪軽げなる常 27 輕輕しう押並べたる様に葵 318 開き憎く実ならぬ、東 172 際もなく清らに裏
203 きらきらしう清げなる竹 281 きらきらしく物清げに東 132 口惜しく哀れに法 180 188 寛ぎがましう歌誦じが
ちに帚 90 曇無く鮮やかに葵 355 苦しう理なり顔 146 苦しう只ならず裏 187 気高う清らなる玉 330 一恥かしげ
なる賢 385 一恥かしげに玉 354・上 267 気高く清らに野 46 一心殊に東 151 ここしう美しげなる乙 309 心憂く如何
なる紫 206 心美しうおいらかなる総 450 心軽うて靡き易なる椎 369 心苦しう哀れに賢 394 心苦しく哀れに宿 34

一 藤げなら末 259 志深く有難げに総 403 心凄う荒ましげなる宿 94 心強き人無く哀れなり蜻 296 心強く同じ様
 に蓬 145 心憎く哀れに上 244 一 重りかに乙 324 一 静かなる (静やかなる) 梅 164 心緩く和穩なる下 365 心の暇な
 く苦しげなり散 419 心の隔ても無く哀れなる初 380 心深う……長閑やかに椎 349 一 恥かしげなる紫 205 心細く哀
 れげなる須 12 一 哀れなる宿 55 一 残り無げに椎 349 心細さの名残無く頼もしげなり総 454 心許無く哀れなる竹
 252 一 哀れなれ胡 408 心安く打捨て様に常 24 こちごちしく流石に初 386 こちたく清らに法 185 一 緩に下 346
 事事しう花やかに柏 42 事事しからず忍びやかに宿 109 事事しく俄に蜻 296 事無く緩に上 249 殊なる寄辺無う
 いとほしげなる法 179 好ましう花やかに袴 111 好ましく艶に椎 365 総 451 恋しう徒然なれ松 199 細かに有趣げに
 横 71 こめかしう緩なら末 244 一言少ななる宿 98 こよなう妬げなり裏 186 こよなく疎に霧 98 一……晴晴しげ
 なめり法 181 一 遙に総 429 一 も疎なる蜻 291 索索しかるべく哀れに東 195 索索しく徒然なる橋 297 一 物哀れなる
 蜻 311 聴く大人びたる様に賢 396 淋しく人少なに句 221 様好う長閑やかなる霧 106 品品しからず逸なら東 196
 品高く美しげなり玉 333 白う貴はかなる柏 31 一 美しげに絵 461 一 てさ青に末 257 白く清らに蜻 318 一 有趣げな
 る横 67 好好き方にはあらで実やかに紫 189 凄じく中なり夢 435 一 人笑へに下 323 そこはかとなき思ひの儘
 なる総 387 そこはかとなく哀れと総 173 一 今めかしげなる幻 213 一 心地好げに柏 48 一 物哀れなる松 204 一 東 193
 一……心細げに柏 14 その人ともなく微なる行 68 丈立物物しくそぞろかに柏 51 立並ぶ人無う心安げなる葵 317
 譬無く静かなる顔 145 一 狭げに下 388 一 長閑に浮 202 譬へん方なく美しげなる桐 47 容易く軽らかに袴 108 堪
 へ難く苦しげなり下 363 契深く哀れなら帚 67 辛く思はずに滑 117 強顔く緩に梅 178 一 知らず顔に顔 137 一
 健に袴 101 一 戯れに朝 256 解け難く恥かしげに帚 87 所狭う哀れなる霧 142 所狭き御調度花やかなる御装須 22
 留め難う物哀れなり霧 105 名高う有趣げなり竹 286 懐しう貴に霧 104 一 貴はかに須 48 一 哀れなり真 121 一 哀れ
 に乙 313 一 横 71 一 心殊なる鈴 77 一 細やかに柏 45 一 梅 159 一 和やかに賢 395 一 柔なる柏 31 一 柔に東 175 一
 藤げなり桐 40 一 藤げなる総 460 一 藤げに紫 203 懐しく哀れなる絵 172 一 心恥かしげに竹 254 一 恥かしげなる総
 429 一 藤げに下 373 一 若やかなり常 20 何心なく美しげなれ紫 230 一 藤げに明 85 一 若やかなる空 116 何心もな

う細なる空113 何心もなく若やかなる橋336 何となく心地好げなる胡410 何となく心地好げに薄223 何の
 種もなく哀れげなる末254 優雅しう清げなり総465 清らに薄102 しみやかなる須21 恥かしげに桐43・
 宿46 有趣げなり柏37 優雅しく哀れに浮271 清らに総426 細かなる上283 生可笑しくも哀れにも下324
 無礼く心ある様に真141 悩ましうて、無礼なる総388 賑はしう花やかなる宿65 憎く愚に東193 似る物無く美しげ
 なり朝269 妬うも哀れにも散418 扱けたる所なく有趣げなる空111 儂く仮初の句229 はかばかしくしたたかなる
 帚82 健なら顔169 端う漫なる紫224 端く突切なる下369 端近う眺めがちに朝257 恥かしく慎ましげに
 帚80 哀れにも東79 憚りも無く奥無き様に手341 晴る方なく徒然なれ螢430 癖癖しう無礼げなり宿40
 久しく常ならず下365 人氣少なり心細げに柏42 人繁からず持成して長閑やかに法190 人遠く長閑やかなる螢419
 人の親げなく片端なり行95 人目少なりしめやかなら下367 人目無く静かに散419 人悪く徒然に賢390 日長く徒
 然なる須48 深う哀れと朝269 深く哀れに鈴90 懇に上298 古り難う清げなる柏46 紛れ所も無く頭の上に307
 又無く哀れなる須38 世の常ならず東142 眩きまで花やかなる句224 見捨て難く哀れなる橋298 見え難く恥か
 しげなり総428 難しう細かなる鈴80 睦しう哀れなる宿33 哀れに(哀れに睦じう)明58・霧134 睦しく哀れ
 なり蜻295 哀れに早23・蜻299 胸痛く流石に帚105 人笑へなる竹267 珍しう哀れに紫208 珍しく哀れと葵318・
 蜻305 哀れに上262・手363 めでたき盛りに上267 めでたく哀れに総400 思ふ様なる真117 好しう凄げに顔
 ましげに早12 有趣げに乙308 目安くしめやかに宿101 花やかなり初390 悟かしう現心ならぬ霧142 物恐ろ
 143 物心細く例ならぬ薄236 物の論繁く長閑ならで薄227 物深う優雅しき薄243 物難しうて、悩ましげに薄244 物
 物しう頼もしげなり行79 やむごとなき人の御氣配のありげなる東140 やむごとなく覚え殊に袴105 心殊に
 袴326 床しう哀れに薄112 行先後安く実やかなる柏29 縁も無く軽らかに常23 夢ともなく徹に朝269 由
 しう清らなる須39 由しきまで有趣げなる玉332 故深く心殊なり上271 由無からぬ様して清げなり東155
 世に無く美しげなる上346 片端なる顔138 清らなる桐28 藤げなり下387 掘所無く心細げなり桐28 藤く
 哀れに玉347 藤藤じく美しげに上268 勞 勞じう(藤藤じう) 花やかなる紅235 若う哀れげなれ乙304 美しげ

形容詞・形容詞・形容
動詞

形容詞・形容詞・形容
動詞・形容詞

形容詞形容詞・副詞・
形容動詞・形容詞

なれ末 254 | 盛りに宿 106 | 藤げなり乙 298 | 若く清げに螢 425 | 盛りの葵 340 | 有^ま趣^しげなる下 376 | 有^ま趣^しげに上
306 態^{わざ}と好ましき事もなく貴^あやかに初 380 態となく忍びやかに散 420 理^わ無^なき稀^{まれ}の浮 235 居^い丈^{だけ}の高^{たか}く洞^{どう}長^{なが}に末 257
有^ま趣^しう細^こやかに東 195 | 藤^{とう}げに乙 299 | も哀^あれにも末 256・胡 403 | も心^こ尽^づしにも霧 108 有^ま趣^しき事^{こと}哀^あれなる節^{せつ}早 11
| 事^{こと}哀^あれなる筋^{すぢ}霧 121 | 様^{さま}にも実^まやかなる様^{さま}にも橋 310 有^ま趣^しくも哀^あれにも帚 86・朝 254・総 425 有^ま趣^しとも哀^あれとも
帚 67 雄^お雄^おしく健^{けん}なる上 255 | 健^{けん}に裏 188 女^にしく細^こやかに東 184
などがある。

形容動詞又は準形容動詞の上に形容詞が二つ重なっている用例には次の様なものがある。

あいなく煩^{わづ}はしう物^{もの}しき様^{よう}に宿 99 浅^あましう高^{たか}く延^{のび}らかに末 257 怪^{あや}しう……優^{なま}雅^やしう恥^ちかしげに宿 46 怪^{あや}しく心
憎^{にく}く哀^{かな}れに裏 188 | 撓^{たゆ}く愚^{おろ}なる下 417 有^あ難^{なん}きまで後^{のち}安^{やす}く長^{なが}閑^{かん}に薄 223 何^いれともなく氣^き高^{たか}く清^{せい}げに句 230 甚^いじう今
め^めかしく有^あ趣^しげなり賀 278 | 香^{かう}しくて貴^あなる手 341 限^{かぎ}りなく優^{なま}雅^やしく清^{せい}らに総 428 汚^{きた}げなけれど思^{おも}成^{なり}疎^そましく荒
らかなる玉 336 氣^き高^{たか}く物^{もの}物^{もの}しう様^{さま}異^{こと}に横 58 心^こ浅^あく怪^{あや}しからず人^{ひと}笑^{わら}へなら浮 271 心^こ地^ぢなくなどはあらぬ人^{ひと}の生^{なま}腹^{はら}
立^{たち}易^{やす}く思^{おも}ひの儘^{まま}に東 179 此^こ上^{じやう}無^なく持^も離^{はな}るる心^{こころ}なく磨^な易^{やす}なる句 229 好^す好^すしく戯^{あそ}れがましき人^{ひと}様の^{やう}胡 404 眩^{まぼ}く見^み苦
しう遊^{あそ}びがちに東 132 雪^{ゆき}恥^ちかしく白^{しろ}うてさ青^{あお}に末 257 行^{ゆく}末^{すえ}短^{みじ}う物^{もの}心^{こころ}細^{こま}うて行^{ゆく}ひがちに柏 20 藤^{とう}藤^{とう}じく深^{ふか}く重^{おも}りか
に橋 301 | 氣^き高^{たか}く緩^{ゆる}なる上 283 折^{しやう}悪^{あく}しく鬱^い怏^{よう}く哀^あれに柏 40

この形の下に更に形容詞が付いて、

怪^{あや}しく癖^{ひがひ}癖^{ひがひ}しく漫^{ますら}に高^{たか}き上 297 嚴^{きび}しく類^{るい}広^{ひろ}く娘^{むすめ}がちにて所^{ところ}狭^{せま}かり須 42 似^にる物^{もの}無^なく心^{こころ}苦^{くる}しく漫^{ますら}に物^{もの}悲^{かな}し法 181 惡^{わる}
びたる無^なく目^め安^{やす}く取^{とり}取^{とり}に有^あ趣^しき総 425
と連^つなる例もある。間に副詞が入って、
甚^いじく面^{おも}白^{しろ}く少^{すこ}し不^ふ束^{とつ}に物^{もの}物^{もの}しき下 345
と重なっている用例もある。

一一 形容詞・形容動詞に動詞と形容詞の連綿

形容詞・形容動詞・動詞

形容詞と形容動詞との連綿の下に類義語の動詞の付く用例には、次の様なものがある。

浅ましうこは如何なる事ぞと思ひ惑はる帯95 浅ましきまで貴に薫る蜻316 浅ましく柔に緩く顔136 — 優雅く薄240 怪しう臆げに目留る顔131 甚じう心細げにて打塩垂る葵351 甚じく(厳しく)鮮やかに目も及ばず上218 気高う恥かしげに整ふ上267 事ししく草がちなどにも戯れ書かず初382 懐しう貴はかに心馳せあり須48 広く大きに作る梅226 又無く世の常ならず傳く東142 紛れ所も無くあらはに見入る上307 若く清げに優雅く野47 理無く出で難に思し休らふ上262

形容詞・形容動詞・形容詞

形容詞・形容動詞の下に類義語の形容詞の重なる用例には、次の様なものがある。

浅ましきまで貴に有趣き東160 怪しう花やかに雄雄しき野52 — 雅に有趣き蜻320 怪しきまで心長閑に物深う東189 怪しく哀れに心苦しく竹298 理想しく長閑やかに心深き総466 何方にもよからず中空に憂き柏44 甚じう人笑はれに憂き胡415 — 人笑へに口惜し柏35 甚じく臆げに有趣上247 限りなう哀れに嬉しく宿125 限りなく貴に気高き東175 限りもなく貴に気高き総443 形など好からねど端に見苦しからぬ顔163 形好く貴やかに目安き句222 事しき程にはあるまじげなりしを人柄の実やかに有趣う浮201 言の葉多う哀れにも有趣うも霧166 子めかしう言少ななる物から有趣かり宿98 此上無う長閑に後安き総456 此上無く明らかに懐かし明66 そこはかとなく貴に優雅しく下347 — 徒然に心細う末245 細くあえかに美しく下341 睦ましう哀れに心安く総174 めでたく貴に優雅しく句219 目安く取取に有趣き総425 安からず哀れに悲しう明70 若く清らに恥かしき真145 若けれど貴はかにて口惜しからねば玉362

右の連綿の上に副詞が付いている用例には、

いと理想しう長閑やかに心深き総466 — 甚じう哀れに心苦し賢369 — 子めかしうしめやかに美しき乙303 — 儚か

副詞・形容詞・形容動詞・形容詞

副詞・形容詞・形容動詞・動詞

副詞・形容詞・形容動詞・動詞・形容詞

副詞・形容詞・形容動詞・形容動詞

副詞・副詞・形容詞・形容動詞・形容動詞

副詞・形容詞・形容動詞

りけれど、流石に高き蜻 293 | 見苦しく殊更にも厭はしき総 446 | 若く清らかに恥かしき真 145 | 雄雄しう鮮やかに
心恥かしき葵 345 | 斯く立去り難く強に床しき宿 123 | 少し眩く艶に好ましき帚 75 | 只いつとなく徒然に凄う宿 55
将甚じう警策に重重しく東 141

副詞・形容詞・形容動詞に動詞が来て、

いと浅ましく柔かに緩く顔 136 | 白う有趣げにつぶつと肥ゆ空 111 | 只いつとなく長閑に眺め過ぐす椎 365
などがある。更に下に形容詞が付く例もある。

いと性なく生憎に驕りて憎かり夢 429

副詞・形容詞・形容動詞・形容動詞の型は、

いとど飽かぬ所なく花やかに美しげなり胡 405 | なほいと甚じく片成に幼弱なる下 340
などがある。最後の若菜下 340 の用例では、副詞が二つ重なっている。

二一 形容詞・形容動詞と副詞の連綿

形容詞に形容動詞及び形容動詞に準ずる類義語・対偶語・対立語の付いた連綿の上に副詞が付いて修飾している用例には、

余り事事しく恥かしげに常 31 | 強強しう気遠げなる橋 309 | 物騒がしきまで暇無げに賢 380 | いと明らむる所な
く儚げなりし蜻 304 | 浅ましう珍らかなる賀 282 | 浅ましく柔に顔 136 | 可惜しう哀れに柏 21 | 可惜しく有
趣げなる手 389 | 怪しう苦しげに宿 124 | 怪しく希有の手 395 | 荒荒しく不束なる浮 263 | 理想しく清げに浮 230
| 一 気配殊に東 150 | いとほしう色色に東 165 | いとほしく思ひの外なる東 191 | 甚じく悲しげなる上 288 |
後痛く中中なれ霧 107 | 美しう様様に橋 301 | 一 麗げなる横 57 | 麗しう清らかに手 406 | 麗しく清らなる夢 420
| 一 清らに手 396 | 一 健なる賀 297 | 嬉しく哀れなり蜻 306 | 一 哀れに宿 90 | 恐ろしう如何なら紫 217
| 一 煩はしげに賢 397 | 恐ろしく悩ましげに浮 273 | 多く哀れげに東 182 | 一 好げに東 141 | 面無う人笑へ

なる真 133 — 香しう艶なる滯 128 — 忝う契殊に松 198 — 忝く哀れと下 374 — 転ある様に蜻 304 — 才しう
 強に霧 113 — 輕輕しく無礼なる浮 224 — 苦しう様様に霧 116 — 苦しう思はずに紫 202 — 孝養の心深く哀れなり
 常 29 — 気高う盛りなる裏 199 — 気近く人伝ならで賀 277 — 気遠く遙に野 47 — 心苦しう哀れなれ宿 88 — 心苦
 しく臆げなれ帚 95 — 心細かりぬべく……人笑へに葵 327 — 子めかしう緩なら末 244 — 此上無く(いと)哀れ
 なり玉 346 — 御辺遙なる上 310 — 様好う柔に胡 405 — 騒がしきまで色に浮 249 — 白う貴に紫 184 —
 涼しげなる空 123 — 有趣げに空 111 — 小さく有趣げなる上 307 — 有趣げに鈴 79 — 長くしどけなげに横
 58 — 懐しうおいらかなる法 197 — 有趣げなり賢 306 — 懐しく若やかなり常 20 — 何心もなく若やかなる橋
 333 — 優雅しう清げなり総 465 — 清らなれ須 37 — 優雅しく清らに袴 100・上 280 — 似げなく(世になく)珍
 らかなる滯 129 — 句無く人悪げに東 180 — 恥かしう殊に竹 281 — 恥かしく慎しげに帚 80 — 深からずとも緩な
 る末 259 — 細く細に上 307 — 見所多く才しげなり宿 68 — 気味悪く如何に紫 227 — 珍しく哀れに裏 206 — め
 でたく思ふ様なり東 197 — 思ふ様なる東 160 — 清らに霧 155 — 有趣げなり野 53 — 目安く心恥かし
 げなり椎 368 — 長閑なる椎 371 — 心憂くて悩ましげに葵 361 — 物儂く哀れに総 381 — 仮初の椎 351 — 物
 物しく実やかに螢 436 — 床しく哀れに朝 252 — 由由しく恥かしげなる手 398 — 臆げに心苦しげなり葵 338 — 労
 じく恥かしげなる宿 77 — 若う貴なる紫 192 — 美しげなる手 346 — 美しげに桐 461 — 清げに竹 266
 — 清らなる柏 46 — 繊細なり竹 289 — 有趣げなり玉 368 — 有趣げなる花 305・乙 290 — 若く美し
 げなれ手 393 — 清らに上 242 — 快げなる上 269 — 盛りに薄 228 — 煩はしく恥かしげなる葵 333 — 佗
 しく思ひの外なる賀 284 — 理無く鮮やかなる霧 147 — 恥かしげに総 393 — 有趣う哀れに東 196 — 色色に
 東 165 — 恥かしげなり霧 108 — いとど搔付かむ方なく悲しげに蓬 146 — 限なう哀れと宿 79 — 優雅しう清らに
 須 17 — 人悪う頑に桐 38 — 細うか弱げなり真 127 — 耳聾しく静ならぬ橋 310 — いとも悲しう哀れに霧 130 —
 優雅しく清らに総 426 — かく忝き仮初の紫 214 — 且は辛き物の哀れなり霧 162 — 実に心苦しう臆げなら末 259 — 然許恨み
 つる気色もなく言少なに総 409 — 暫こそ似げなく哀れと玉 335 — 責て縁無く知らず顔に顔 137 — 只凄く哀れに蓬 160 — 艶

副詞・副詞・形容詞・
形容動詞

形容詞・副詞・形容動
詞

艶と事痛う美しげなり椎 376 | めでたう有^{おもしろ}趣^{おもしろ}げなる総 461 | 中^{なかな}今^{いま}めかしう心安げに竹 290 | 珍しく哀れに手 374
何^{なに}許^{ゆる}事^{こと}事^{こと}しく物深げにも……で総 467 | 猶^{なほ}甚^{はな}じう徒^{つれ}然^ぜなれ葵 347 | 古^{いにし}り難^{がた}く惜^{おし}しげなり下 402 | 由^{よし}由^{よし}しく清げに宿
124 | 抛^{より}所^{どころ}無^なく心細げなり桐 28 | 人より異^いに小さく美しげに下 346 | 若^{わか}く有^{おもしろ}趣^{おもしろ}げに上 306 | 真^{まこと}に心病ましくて強^{あながち}
なる帚 97 | 漸^{やう}覺^{さう}束^{つか}なく哀れに裏 197 | 世に怪^{あや}しう打^{うち}合^あはぬ様^{さま}に真 131 | 暇^{いとま}無^なく生^き直^{すく}に橋 309 | をさをさ様^{さま}好^よく静^{しず}か
ならぬ上 305

などがある。上に副詞が二つ付く用例には、

いと転強^{うたて}く憎^{にく}げなる上 293 | いと然^{さば}許^{かり}氣高^{きたか}う恥^はかしげにはあ^あら^あで^で下 373 | 今^{いま}少^{すこ}し美^うしう藤^{とう}げなる絵 405 | 重^{おも}重^{おも}
しくやんごとなげなる宿 113 | 斯^さくいとめでたく清げながら玉 354 | 実^{じつ}にいと荒^あ荒^あしく不^ふ束^{つか}なる浮 263 | 若^{わか}く幼^お
げなり上 254 | 実^{じつ}に斯^さく賑^{にぎ}はしう花やかなる宿 65 | 凡^{すべ}ていと見^み所^{ところ}多^{おほ}く才^{かど}才^{かど}しげなり宿 68 | 況^{まして}然^さ許^{かり}色^{いろ}めかしう涙^{なみだ}脆^{もろ}な
る早 14 | 未^{まだ}いと幼^{いは}く幼^おげに霧 166 | 小^こさく片^{かた}成^{なり}に上 247 | 例^{れい}のいと若^{わか}う緩^{ゆる}なる鈴 98

などがある。副詞が間に入る用例もある。

親^{おや}どもも無^なくいと心細^{こころこま}げに葵 348 | 心も無^なき物^{もの}からいと物思^{ものおも}ひ顔^{かお}に帚 79 | 何^{なん}心^{こころ}もな^なくいと清^{きよ}げに浮 227 | 迷^{まよ}ふ筋^{すぢ}無^なく
ていと清^{きよ}らに下 387 | 頼^{たの}もしげなくいとどあ^あえかに法 173 | 頼^{たの}もしき人も無^なくげにぞ哀^{かな}れなる須 19 | そこはかとな^なく
て只^{ただ}世^よを恨^{にく}めしげに竹 271 | 今^{いま}めかしう中^{なか}中^{なか}昔^{むかし}よりも花やかに鈴 91 | 覺^{おぼ}束^{つか}なく恨^{にく}めしげなり明 97

一三 形容動詞を含む種々の品詞の連綿

右は割合に用例の多いものについて考察したものであるが、次に形容動詞を含んだ種々の品詞の連綿について考察し、源氏物語の本文・語彙のもつ対偶性を調べてみよう。

形容動詞・名詞

強^{あながち}なる好^{すき}色^{いろ}心^{こころ}帚 96 | 打^{うち}付^{つけ}の好^{すき}好^{すき}しさ帚 55 | 緩^{ゆる}なる貴^{あや}さ東 175 | 世^よの常^{とこ}なる程^{ほど}の殊^{こと}なる事^{こと}無^なさ末 260 | 艶^{つや}にあ^あえか
なる好^{すき}好^{すき}しさ帚 77 | 世^よの常^{とこ}の好^{すき}好^{すき}しさ竹 255

嗟畏心無き様に橋 313 — 賞有趣げ東 157
 花やかに嗟清げ玉 371 強なりや嗟憎葵 323 物より殊に嗟賞宿 68
 怪しう異所に似ず窈窕なる紫 180 怪しく世の人に似ずあえかに顔 168 甚じう見るに笑まれて、清らなり須 49 甚じ
 く生先見えて、美げなる紫 184 氣高く愛敬づき清らに東 151 此上無く際勝りて、愚なり幻 200 懷しう見所ありて、細か
 なり松 191 — 由付き恥かしげなり裏 187 賑しう愛敬づき有趣げなる空 112
 氣配賤しく言葉濁みて、骨無げに物馴る橋 309 懷しう優雅き貴に愛敬づき柏 41
 形有趣く打大解き若やかにて、紛るる事無き帚 68
 その事ぞと思ゆる限なく愛敬づき懷しく有趣げなり浮 223
 怪しう物麗しう然るべき事の折過ぐさぬ古体の行 86 似る者無く氣高く愛敬づき清らに東 151
 何れとなく悪びたる無く目安く取取に有趣き絵 425 口惜しくも、辛くも、むくつけくも、哀れにも色色に深く下 372
 所狭く暑げなるまで、事事しく装束く鈴 78
 怪しく癖癖しく漫に高き上 297 言の葉多う哀れにも有趣うも聞え尽す霧 160
 形容動詞を含む類義語の連綿で、副詞が上に来る用例を前掲の例以外に拾ってみると、
 いと忍びて言も続けず慎しげに言ひ消つ宿 50
 返返見るとも、見るとも、飽くまじく、匂ひやかに有趣けれ東 152
 飽くまで用意あり貴に薦げなり散 469
 甚く湿りて分明にも、見合はせ奉り、給はぬ下 391 いと優れて有趣げに心なども足らふ匂 236 いとどこの世の物なら
 ず清らに成人く桐 42
 いと若けれど、生先見えて、豊肥に紫 230
 将似る物なく氣高く愛敬づき清らに東 151
 いと麗しく事事しきまで、盛りなる宿 81 — 恥かしく眩きまで、清らなる浮 238 中中甚しく優雅しくて眺めがちに顔 164

三

副詞・形容詞・形容動詞・形容動

・副詞・形容詞・形容動詞・形容詞・形容動詞

副詞・形容動詞

副詞・形容動詞・動詞・
形容詞

副詞・形容動詞・動詞

副詞・形容動詞・形容詞・動詞

副詞・形容詞・形容動詞・形容詞・動詞

副詞・動詞・形容動詞・
形容動詞・形容詞・動
詞・形容動詞

形容詞・形容動詞・副詞・動詞・

形容詞・動詞・副詞・

形容動詞・副詞・形容動詞

形容動詞・副詞・動詞

詞形容動詞・畠詞・形容

詞・形容詞・動詞・副詞・形容詞・動詞

形容動詞・副詞・形容詞・形容詞

形容動詞・形容詞・副詞・形容詞

・副詞・動詞
・副詞・形容動詞

いと形よ好く目安き様に長閑のどかに霧 167

然許何れとなく若う盛りにて清げに宿

細細と貴なり東195
艶艶と清らなり手357

いと若やかに愛敬づき優しき蜻せみ335
只柔なやに愛敬づき臍へらき宿68
尽つくせず細かに優雅なやまきて珍めづしき絵171

いと盛りに匂ひ花やかなる竹 294
一弱げに息も絶え衰れなり柏 31

いと清らに物物しく太る上 275
 静かに快く子めく真 124
 徒然に心細く眺め居る下 378
 万の事につけて静か

に心細く暮しかぬ柏48 心づから物思はしげにて口惜しう衰ふ野63

只健に言少なにて直直しき宿81

猶人に優れて鮮やかに清らなるものから懐しう由づき恥かしげなり裏

副詞が間に挟まれている用例には、

怪しう只ただ打見るに優雅なまめかしう恥かしげにて宿46

怪しく人に似給はず、余りまめ実まめに総448

ことわり
 理ながらいと哀れに賢377
 にはか
 俄に斯く掲焉に螢423
 けをそん

気色殊に顔少し赤みて裏263
 斜に然てもありぬべき帚63
 直振に將打解けず幻207
 知らず顔にてやをら退く宿75

流石にいと捨て難き須11
実やかには―傍痛し朝254
取取に―めでたけれ桐46
無下に―頼もしげなく紫289

様異に実に賑はしき真142 覚え殊に昔よりやむごとなく朝257

分明にいと物遠く竦む椎 371 強に……な深く習ひそ絵 185

髪緩にいと長く目安き紫185

忍びやかに美しいいと懐しき袴 101

連綿の上に副詞が二つ重なる用例には、

いとどなえなえ萎萎とあえかに臥す総455
斯あつくいと頼もしげなき様に悩み篤あつい給へば法174

三

いと好^よげに今少し轉^まる常30

や、用例13（玉354）などがある。13では、副詞・副詞・形容動詞・形容動詞・副詞・動詞 という長い連綿になっている。

雑然と寄せ集めた形になってしまったが、形容動詞を含む語彙の連綿の実態の概要を右に掲げた。

一四 形容動詞を含む連綿の型

形容動詞を含む類義語・対偶語・対立語の連綿では、並列型・並挙型が多い。前掲の用例でも、11 13 14 15 17 18 19 など、皆この型である。

並列型

20 わがもてなし・ありさまは、いと、あてはかに、見めかしくて、又なくらうがはしき、隣の用意なさを、いかなることゝも、聞き知りたるさまならねば、

(一) 夕顔 139

では、名詞・形容動詞・形容詞を並列して、夕顔の女の性質を描写している。

21 女房 「かのおとゞは、よろづの事、なつかしうなまめき、あてに愛敬づき給へる事の、並びなきなりけり」女房

「これは、をゝしう、鮮かに、「あな清ら」と、ふと見え給ふ句ぞ、人に似ぬや」と、うちさゝめきて、(四) 柏木 51

では、形容詞・動詞・形容動詞の類義語を並列して、女房たちが柏木と夕霧との容姿を噂している。

並列型の語彙が対立語になる対立型も多い。

対立型

22 中将の君、面、色かはる心地して、恐ろしくも、かたじけなくも、嬉しくも、あはれにも、かたぐ移ろふ心地して、涙おちぬべし。

(一) 紅葉賀 285

では、源氏が始めて若宮を見て、心の鬼に責められ、様々に移ろう感情を対立させて、形容詞と形容動詞とを連綿している。用例4 5 9も同じである。5では、逆接の接続助詞「物から」で対立語を連綿している。

23 あざやかに、け高き物から、なつかしう、なまめいたり。

(四) 柏木 43

並列・対立型

でも、「物から」で対立語を連綿している。

24 「をこがましき御心かな」と、かつは、つらきものゝ、あはれなり。

(四)夕霧 162

では、副詞「かつは」と接続助詞「もの」を用いて対立語を連綿している。用例4では、並列型と対立型とが一つの文中にある。

換言型

『詩経』『国風一』『周南一の一』の「関関雉鳩」を、「関関とやはらぎ鳴ける睡鳩のみささ」の様に、同一の漢字

・漢語を音で一度読み、更に訓で読む方式「文選読み」の様に、上の語を他の語で言い換えて連綿する換言型もある。

25 御襦袢などぞ、ことくしからず、しのびやかに、しなし給へれど、

(四)宿木 109

26 網代の波も、此のころは、いと、耳かしがましく、静ならぬをとて、

(四)橋姫 310

などでは、上の形容詞を形容動詞に言い換え、

27 さばかり、恨みつる気色もなく、言づくにことそぎて、おしつゝみ給へるを、

(四)総角 409

では、形容動詞を動詞に言い換えている。

28 今宵の遊びは、「長くはあらで、はつかなるほどに」と思ひつるを、

(三)若菜下 354

なども、同じ事を言い換えて連綿にしている。

言い換えの程度が進むと、次の様な説明型・詳述型になる。

29 されど、のどかに、つらきも憂きも、かたはら痛きことも、思ひ入れたるさまならで、

(一)夕顔 139

30 重りかなる方ならで、たゞ、心安く、らうたき語らひ人にてあらせん。

(四)蜻蛉 324

31 「宮の御琴の音の、おどろくしくはあらず、いと、をかしく、あはれに弾き給ひしはや」と思し出で、

(四)東屋 196

32 山吹にもてはやし給へる御かたちなど、いと花やかに、「こゝぞ曇れる」と見ゆるところなく、隈なく匂ひきら

(二)初音 381

33 かのおとゞ、何事につけても、きはくしう、少しもかたはなるさまのことをおぼし忍ばず、

(二)行幸 67

同格型

など、いずれもく印の上の語を下で詳述している。

最後に、同格で連綿する型をあげておこう。

34 げに、「これぞ、なのめならぬ、かたはなべかりける」と、馬頭のいさめ、…

(一)夕顔 131

は、形容動詞が同格で連綿して述語になっている。

35 まだ片生ひなる手の、生ひさき美しきにて書きかはし給へる文どもの、

(二)乙女 386

36 ……と、すくよかに、白き色紙のこはくしきにてあり。

(三)宿木 70

37 白き綾の、なつかしげなるに、今様色の擣目なども清らなるを着て、

(四)東屋 180

38 物嘆かしげなるさまの、かたくなしげなるも、うち返し「怪し」と御覧じて、

(五)浮舟 206

など、関係代名詞に当たる同格の助詞「の」(デ、デアッテ)で連綿した連用修飾語である。

35は逆接用法の「の」(デアルケレド)のため対立型でもある。これらの五つの型は、主語・述語・連用修飾語・

連体修飾語のいずれの場合にも用い、長文では三つ以上の型が並存している場合も多い。

○源氏物語卷名略称(明白なものは省略) 顔—夕顔 紫—若紫 賀—紅葉賀 宴—花宴 散—花散里 袴—藤

袴 裏—藤裏葉 上—若菜上 下—若菜下 霧—夕霧 法—御法

卷名の下の算用数字は日本古典文学大系『源氏物語』(岩波書店発行)の当該ページを、漢数字は巻数を示す。

注① 『美貌の皇后』(角川文庫) 155頁 注② 『英訳源氏物語』について 正宗白鳥選集第九巻 評論篇28頁 注③ 同29頁

注④ 『美貌の皇后』 156頁 注⑤ 国文注釈全書『河海抄・花鳥余情・紫女七論』「紫女七論 全」10頁12頁 注⑥ 国文注

釈全書『源氏物語評釈 全』63頁67頁 注⑦ 『日本文学全史』巻四 第十六「偉大なる集成創建『源氏物語』」180頁 注⑧

源氏物語の語法・用語例—慣用句(一)山梨県立女子短期大学紀要第五号 6頁12頁 注⑨ 源氏物語の語法・用語例の一考察

—形容詞語集の対偶性—滋賀大國文16 1頁20頁 注⑩ 國學院大学国文学会紀要 金澤庄三郎・折口信夫編『国文学論究』

(昭和九年七月) 85頁93頁 注⑪ 吉田弥平編『松井博士古稀記念論文集』(昭和七年二月) 433頁452頁